

(中略)

右見在文書并繪圖等口録如件。

但除自京下置文書定。

大治五年三月十三日

專當大法師 在判

(下略)

(原本に幡生莊を幡生村とす。この地天平神護二年の文書には越前江沼郡たりしも、大治には加賀能美郡たり。又神力の次は良宗か良家か字體不明なり。)

大治六年

辛亥

天承元年

正月廿九日

紀元一七九一

六月十二日。加賀守高階宗章、その留守所をして山城醍醐寺領加賀郡得藏莊に大神宮役夫工作料を免除せしむ。

【醍醐雜事記】

應宣 留守所

可早免除得藏庄役夫工作料事

三六

右庄可免除狀如件。留守所宜承知依宣行之。以宣。

天承元年六月十二日

守高階朝臣 在判

保延七年

辛酉

永治元年

七月十日

紀元一八〇一

八月四日。加賀守藤原雅教、その留守所をして山城醍醐寺領加賀郡得藏莊に白山宮修造の課役を免除せしむ。

【醍醐雜事記】

應宣 留守所

可早免除醍醐寺領得藏庄白山修造所課事

右依先例、不論權門勢家、一同雖令徵下、於件庄者依指仰、早可免除所課之狀所宣如件。留守所宜承知依件行之。以宣。

永治元年八月四日

民部權少輔兼守藤原朝臣 在判
雅教

三七

【醍醐雜事記】

雅教所進免除廳宣遺之者。依天氣上啓如件。

永治元年八月四日

右近衛權中將教長奉

進上 大僧正御房

久安六年

庚午

紀元一八一〇

正月十九日。能登守藤原基家、女御藤原多子の御封庸米を進上す。

【婚記】

能登國解 申進上御封庸米事

合 佰斛

右當年新進上如件。以解。

久安六年正月十九日

守藤原朝臣基家

【婚記】

四〇

女御家政所返抄 能登國

檢納庸米佰斛事

右當年御封檢納如件。故返抄。

久安六年正月十九日

知家事 主稅允 佐伯 在判

別當 尾張守藤原朝臣 在判

正月十九日。女御藤原多子の侍所、能登國衛に牒して垂布十五段を進上せしむ。

【婚記】

女御家侍所牒 能登國衛

可早令進上垂布十五段事

牒。侍所用途新可進上之狀、牒送如件。故牒。

久安六年正月十九日

別當散位藤原朝臣 在判

所司治部丞中原朝臣 在判

刑部少輔藤原朝臣 在判

散位 藤原朝臣 在判

四一